

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：25301

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K14116

研究課題名（和文）アメリカ進歩主義教育期における幼稚園 - 小学校接続に関する思想史的研究

研究課題名（英文）Kindergarten in the American Progressive Education Era; A Historical Study on Connection to Elementary School Curriculum

研究代表者

山本 孝司 (Yamamoto, Takashi)

岡山県立大学・保健福祉学部・教授

研究者番号：00399768

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、エリザベス・P・ピーボディによるアメリカ幼稚園運動草創期の幼稚園教育の独自性についての考察から始まり、拡充展開期におけるパティ・S・ヒル、アリス・テンプルによる初等教育との接続による幼稚園教育改革についての考察を中心に、幼児教育、初等教育の接続期における幼稚園、初等学校それぞれの独立性と独自性担保と円滑な接続のためのカリキュラム等工夫の在り方について考究した。さらに、初等教育と接続するための幼稚園カリキュラムの考案の背景となるデューイの影響についての考察、初等教育から幼児教育へ向けた接続の一断面としてエラ・V・ドブスの手工教育実践にも焦点を当て、経験の接続の論理を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

19世紀後半から20世紀初頭にかけてのアメリカ幼稚園運動における幼稚園の位置づけと性格の変遷を、運動の先駆者の教育思想、フレーベル主義幼稚園と進歩主義幼稚園双方によるそれぞれに対する批判の論点を中心に研究を行ったが、アメリカは、幼 - 小接続が比較的円滑に行われた先行事例でもある。こうした意味合いで、「思想的」という限定的な検証にもかかわらず、進歩主義教育期における幼 - 小接続の理論的背景を探ることは、今日の我が国における幼小接続のあり方を考えるうえで意義をもつ。

研究成果の概要（英文）：This study examines the uniqueness of kindergarten education in the early stages of the American kindergarten movement by Elizabeth P. Peabody, and kindergarten education in connection with primary education by Patty S. Hill and Alice Temple in the period of expansion and development. Considered reform. Through these considerations, I studied how to ensure the independence and uniqueness of kindergartens and elementary schools in the period of connection between early childhood education and primary education, and how to devise curricula and other measures for a smooth connection. In addition, I consider Dewey's influence behind the design of the kindergarten curriculum to connect with primary education, and I refer to Ella V. The educational practice was also considered. Through the consideration, I clarified the logic of the connection of "experience".

研究分野：教育学

キーワード：アメリカ幼稚園運動 エリザベス・ピーボディ 幼児学校 フレーベル主義 進歩主義幼稚園 パティ・スミス・ヒル アリス・テンプル ジョン・デューイ

1. 研究開始当初の背景

国内外において幼(保)小接続期の指導の重要性に注目が集まって久しい。今日のわが国においても幼(保)小の接続の試みが、制度的にも臨床的にも進められてきている。こうした試みの背景には、「小1プロブレム」等、幼稚園(保育園)と小学校の学習の段差によって生じる問題(小学校で授業についていけない等学校に適応できない子どもの増加)の解消という喫緊の課題への対応という側面がある。この間に、幼小接続カリキュラムの開発、幼稚園(保育園)や小学校を取り巻く資源(家庭、地域)の教育的再編(認定こども園設立、学校運営協議会の立ち上げ等)を通しての両教育施設の制度的接続もかなりの程度進んでいる。このような動向を受け、幼小接続に関して、とりわけカリキュラム研究を中心に数多くの研究書、学術論文が存在する。

その反面、先行事例として、19世紀末から20世紀初頭にかけてのアメリカ進歩主義教育期において幼稚園と小学校の理論的相互作用が存在したこと、そのことが両者のスムーズな接続の成功例を示し得ることについては、今日の幼(保)小接続に関する研究では、焦点化されないことがない。

アメリカは、幼稚園と小学校の接続の成功例であり、それらは幼稚園運動期から進歩主義教育期の中の幼稚園から小学校、小学校から幼稚園に対する相互批判を通しての接続カリキュラムと教授法の共有に負うところが多い。

2. 研究の目的

本研究の目的である、進歩主義教育期の幼 - 小接続に関して思想的検証を行うことにより、幼稚園、小学校の教育原理の相互作用について明らかにすることは、次の二点の独自性がある。19世紀アメリカにおける幼児学校と幼稚園の教育原理の背景となるペスタロッチ主義とフレーベル主義の幼児教育における意義について明らかにするという点、また進歩主義教育期における幼稚園の教育原理と小学校の教育原理の相互作用について明らかにするという点である。

19世紀20年代にヨーロッパからペスタロッチ(Johann Heinrich Pestalozzi, 1776-1827)の思想がアメリカに入り、幼児学校を中心にペスタロッチ主義の教育原理が受容され、それに基づく教育実践が展開された。このペスタロッチ主義の流行は、19世紀半ばには下火になり、南北戦争以後にペスタロッチ思想およびペスタロッチ主義の教育原理の影響力はなりをひそめる。その入れ替わりにアメリカに入ってきたのがフレーベル(Friedrich Wilhelm August Fröbel, 1782-1852)の思想とフレーベル主義に基づく幼児教育原理であった。フレーベル思想とフレーベル主義の幼児教育原理についても、その普及には『アメリカ教育雑誌』の貢献があった。コネチカット州教育長ヘンリー・バーナード(Henry Barnard)が寄稿した「フレーベル幼稚園の体系」(1856年)によってフレーベル思想とフレーベル幼稚園についてアメリカにおいて広く周知されることとなった。このような過程に関連して、幼児学校の背景となるペスタロッチ主義と幼稚園の背景となるフレーベル主義のアメリカ教育界における実践理論としての比較検証は充分になされていないのが現状である。

また、幼稚園が制度的に拡充されていく進歩主義教育期には、幼稚園と小学校の双方から教育原理、とりわけ方法原理としての教授法の点で、相互批判が行われ、こうした批判の結果、一方において幼稚園の教授法(キンダーガルテン・メソッド)によって進歩主義学校(小学校)の教授法が修正され、もう一方の進歩主義学校(小学校)では幼稚園の教授法に強く影響されていく。こうした幼稚園と小学校の教育原理にかかわる相補関係についても、先行研究で十分な検証はみられない。

さらに、1925年までにアメリカにおいて進歩主義教育の原理が幼稚園教育の実際に普及し定着するのであるが、それは当地において今日の幼児教育の基礎が確立した時期に相当する。しかも、先述したように、アメリカは、幼 - 小接続が比較的円滑に行われた先行事例でもある。こうした意味合いで、「思想的」という限定的な検証にもかかわらず、進歩主義教育期における幼 - 小接続の理論的背景を探ることは、今日の我が国における幼小接続のあり方を考えるうえでも「創造」的であり得ると考えた。

3. 研究の方法

上記の点を踏まえて、本研究では、進歩主義教育期の幼 - 小接続の思想的検証を行うために、

A 幼児学校と幼稚園の教育原理に関する比較研究、 B 進歩主義教育期における幼稚園と小学校の教育実践理論の相互作用に関する研究という二つの柱で研究を実施した。 A では、ペスタロッチ主義の普及と幼児学校についての考察、フレーベル主義と幼稚園運動についての考察、フレーベル主義によるペスタロッチ主義の批判的発展；ピーボディ幼児教育論についての考察の三つの考察を中心に、主としてアメリカ幼稚園教育の先駆者エリザベス・P・ピーボディの幼児教育思想とそれに基づく幼稚園教育実践に焦点を当てて、アメリカ南北戦争後の幼児教育の変化とフレーベルの教育思想の導入によるアメリカ教育界における幼稚園の位置づけとアメリカの幼稚園の性格について考察を行った。さらに B では、20世紀初頭のアメリカにおける幼 - 小接続：進歩主義教育理論におけるフレーベル主義の克服についての考察を行った。

上記の A B の研究を順次進め、進歩主義教育期の幼稚園と小学校の接続について思想的に検証し、我が国の幼（保）小接続の方向性への示唆を得ることを試みた。

4. 研究成果

(1) 2019年度の研究成果

エリザベス・ピーボディを中心に、幼児学校に対する批判的克服の実践としての幼稚園教育の展開と、セントルイスを起点としハリスとプロウによって設置され展開した公立学校幼稚園における教育との距離の中に、彼女の幼稚園教育思想の独自性を見出した。

ピーボディ幼稚園教育思想における幼稚園と家庭、学校との位置関係について探り、アメリカ幼稚園運動草創期から拡充期にかけて幼稚園に期待された役割の変遷について明らかにした。

公立学校幼稚園の普及に伴う幼稚園の公立化の傍流にあったキリスト教教会による慈善幼稚園運動に焦点を当てて、その流れの中に公立幼稚園とは異なる幼稚園機能について明らかにした。

(2) 2020年度の研究成果

アメリカ幼稚園運動のうち、パティ・スミス・ヒルの「コンダクト・カリキュラム」を中心に、進歩主義教育期における幼小におけるカリキュラム接続の試みに関する考察を行った。その中で、「コンダクト・カリキュラム」創造過程における、ヒルによるフレーベル主義批判の論理を明らかにするとともに、「コンダクト・カリキュラム」の幼小接続カリキュラムとしての位置づけを行なった。アメリカにおける幼稚園と小学校の制度的接続に関しては、1870年代の公立学校幼稚園に遡るが、幼児教育と初等教育の接続をめぐる本格的な議論は、19世紀末から20世紀初頭にかけてのアメリカ進歩主義教育期における学校制度への幼稚園の位置づけに付随して展開された。理論および実践双方にまたがる幼小接続は、この進歩主義の流れを汲む幼稚園および初等学校で初めて試みられた。この点に着目し、アメリカ進歩主義教育期に、コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ附属幼稚園（ホーレス・マン幼稚園）において幼稚園と初等学校第1学年との連続性をもたせて考案された「コンダクト・カリキュラム」の考察を通して、今日の我が国

の保幼小の円滑的接続への示唆を得た。

(3) 2021 年度の研究成果

フレーベル主義幼稚園批判と進歩主義幼稚園カリキュラム開発に取り組んだアリス・テンブルの実践理論に焦点を当て、彼女のシカゴ大学附属実験学校における幼小接続カリキュラム開発の取り組みについての考察によって次のことが明らかとなった。

テンブルのシカゴ大学附属実験室学校における幼稚園と小学校第 1 学年の統一カリキュラムは、国際幼稚園連盟における「幼稚園カリキュラム」作成の延長線上にあり、開発の出発は、幼稚園教育の独自性がアメリカ教育界に広く知れ渡り幼稚園と小学校相互の影響関係が認められるようになったという土壌のもとで、児童研究運動と新心理学を背景に、個々の子どもの精神発達という点から施設を跨いで教育理論および実践について考案する可能性が拓かれたこと。

彼女の幼稚園と小学校第 1 学年の接続カリキュラムにおいては、領域ごとに内容が、「社会的要求」と「子どもの成熟度」という二つの原則により整理されていたこと。

同カリキュラムにおいて、幼稚園と小学校第 1 学年の教育内容の共有化とともに、「社会生活の研究」を軸に、子どもたちの経験に即して教育内容の系統的配列がなされていたこと。

また、エラ・ヴィクトリア・ドブスの手工教育を通じた幼小接続の実践の試みに焦点を当て、小学校教師の側からの幼小接続の取り組みについても考察を行い、アメリカ幼稚園運動の他の指導者とは異なるドブスの実践の独自性として、実践理論としてのプロジェクト学習考案の過程で逆流する形でフレーベルへと辿り着いた点、さらに幼稚園教育から小学校教育へのアプローチではなく、小学校教育から幼稚園教育へとアプローチした点を明らかにした。

(4) 2022 年度の研究成果

テンブルの実践理論書『幼稚園と小学校第 1 学年の統一された教育』を手がかりに、テンブルによるデューイの教育実践理論の受容と展開について明らかにした。その中で、デューイ在職時におけるシカゴ大学附属実験学校とテンブル在職時における同学校の実践的性格を比較することを通して、テンブルがデューイの同校実践理論の何を継承し、何に対して発展的に修正を加えていったのかについて、同校における実践の目的と同校幼児教育のカリキュラムに焦点化して考察し次のことが明らかとなった。

社会的側面と心理的側面から立案されたカリキュラムと目的と結びついた子どもの主体的活動を旨とする彼女の学習理論をデューイから踏襲したこと。

カリキュラムの内容に関しては、社会的側面としての「オキュペーション」の活動目的の意識化と心理学的側面としての精神能力の付随化が幼児教育においてもあらためて図られたこと。

他方で、デューイ在職時には初等教育における「オキュペーション」の幼児教育へ下降的拡張により、初等教育に軸足を置いた幼稚園のプレスクール化で幼小接続が図られていたのに対し、テンブル在職時には、接続カリキュラムの理論がより明確にされ、その中で、小学校カリキュラムから幼稚園カリキュラムへの下降的拡張のみならず、幼稚園カリキュラムから小学校カリキュラムへの上昇的拡張も図られていたこと。

研究期間全体を通して、ピーボディ、ヒル、テンブル、ド布斯といった幼児教育実践家の教育思想、殊にカリキュラムの基底にある実践理論の考察により、フレーベル由来の幼稚園の独自性が初等教育との接続により批判的に検討されていくなかで進歩主義幼稚園教育実践家によってどのように作り変えられていったかについて明らかにし、今日のわが国の幼小接続において、幼稚園の独自性を維持しつつ、初等教育にとってのプレスクールとして機能をいかに付加していくかについて、19 世紀 20 世紀のアメリカにおけるフレーベル主義と進歩主義の相互批判から示唆を引き出した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 山本孝司	4. 巻 28
2. 論文標題 アリス・テンブルの幼稚園教育思想 アメリカ進歩主義教育期における幼小接続カリキュラム開発の試み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岡山県立大学保健福祉学部紀要	6. 最初と最後の頁 127-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15009/00002405	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 山本孝司	4. 巻 6
2. 論文標題 エラ・ヴィクトリア・ドブスの手工教育実践に関する考察 アメリカ進歩主義教育期における幼小接続の試みの一断面	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岡山県立大学教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15009/00002409	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 山本孝司	4. 巻 45（1）
2. 論文標題 パティ・スミス・ヒルのコンダクト・カリキュラム創造過程 - フレーベル主義批判の論点とその克服を中心に -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育新世界（世界新教育学会）	6. 最初と最後の頁 12 - 21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山本孝司	4. 巻 27
2. 論文標題 アメリカ進歩主義教育期における幼小接続の試みに関する考察 ホーレス・マン幼稚園のカリキュラムを中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岡山県立大学保健福祉学部紀要	6. 最初と最後の頁 123 - 132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15009/00002371	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山本孝司	4. 巻 46
2. 論文標題 19世紀アメリカ幼稚園運動の一断面 エリザベス・ピーボディによる幼児学校批判と幼稚園教師養成にみる幼稚園教育観 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 関東教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本孝司	4. 巻 65
2. 論文標題 エリザベス・ピーボディ教育思想における幼稚園の位置づけ - 家庭・学校との関係に焦点化して -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育学研究紀要 (中国四国教育学会)	6. 最初と最後の頁 505-510
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本孝司	4. 巻 4 (1)
2. 論文標題 アメリカ幼稚園運動期におけるキリスト教的人道主義の諸相 幼稚園を拠点とした社会事業に着目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 岡山県立大学教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 57-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15009/00002346	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本孝司	4. 巻 7 (1)
2. 論文標題 アリス・テンプルによるシカゴ大学附属実験学校の展開 : 幼稚園カリキュラムへのデューイの影響	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岡山県立大学教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15009/00002451	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 山本孝司
2. 発表標題 エリザベス・ピーボディ教育思想における幼稚園の位置づけ - 家庭・学校との関係に焦点化して -
3. 学会等名 中国四国教育学会第71回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本孝司
2. 発表標題 超越主義と進歩主義教育の間 ミッシング・リンクとしてのピーボディ幼児教育思想 -
3. 学会等名 日本イギリス理想主義学会関西西部会2019年度研究例会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

岡山県立大学保健福祉学部と韓国又松（ウソン）大学との国際学術交流会で「日韓の就学前の教育と小学校教育の連携」をテーマに、日本における幼小接続の歴史と現状についての報告を行った。（2022年10月7日（金）13時30分～17時オンライン開催）
--

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------